

# 保育者養成における実習日誌の指導に関する研究

— 実習園への聞き取り調査から —

小澤 由理

日本児童教育専門学校非常勤講師／職業教育研究開発センター客員研究員

## A study on training diary writing for pre-service practical training in childcare

— From Interviews at the nursery school and kindergarten —

Ozawa Yuri

Part-Time Teacher of Japan Juvenile Education College / Visiting Fellow of Vocational Education and Training / Research, Development and Innovation Center

**抄録：**本稿は学生の学びを支えるための実践的で効果的な実習日誌の指導について、実習日誌の様式に注目し、実習指導を行う保育所および幼稚園の現場職員にインタビュー調査を行った。本調査の内容は①各園が重視する実習日誌の指導のポイント②現行の実習日誌の主流である時系列型およびエピソード型のメリット・デメリット③今後の望ましい日誌の様式を一覧としてまとめた。①については保育者の意図や動きの把握、考察を十分に行えたかという点を重視することが分かった。また②日誌の様式については、時系列型の日誌は一日の流れを把握することについては評価が高かったが、実習段階に応じた指導や保育の観察や考察の質を高めるにはエピソード型の日誌の評価が高かった。③デジタル機器を活用した新しいタイプの日誌については、個人情報保護の観点から慎重な意見が多かった。一方で、効率的な日誌の指導についてはデジタル機器の積極的な活用を求める声があった。

**キーワード：**実習日誌の様式、保育者養成、実習指導

### 1. はじめに

2017年の保育所保育指針の改定によって、保育現場では保育計画の作成と保育内容の評価のプロセスにおいて、年間を通した保育の振り返りがますます重要視される。保育記録は保育者がさまざまな視点から自らの保育を振り返り、園全体の保育の質を高めるために欠かせないツールである。保育者養成校では保育現場における保育記録の活用とその意義について様々な科目を通じて学生たちに指導を行っている。とりわけ実習指導を通じた実習日誌の作成は、保育現場の保育記録の作成に通じる実践的な学びとして、学生が実習指導者とともに自らの保育実践をふり返り、保育者像を模索するための指導を

行っている。

しかしこの実習日誌の指導については課題がある<sup>1)</sup>。学生の中には実習期間中の忙しい合間を縫って、書き慣れない実習日誌を作成することに大きな負担（睡眠時間を削る、等）を感じたり、子どもの様子や保育の状況を描写したり考察することに苦手意識をもつ学生は多くいる。（陸路、松本他：2019、亀山、佐竹他：2019、大江、大谷他：2015）。また保育者養成校では、実習期間中は具体的な日誌の指導の大半を実習先に委ねている現状がある。実習先での指導の実態は様々であるため、配属された実習先の指導方針や方針に上手く適応できず困難を抱える学生もいる。

そこで本研究では学生の学びを支えるための実践的で効果的な実習日誌の指導について、実習日誌の様式に注目した。実習日誌の様式については、多くの養成校が一日の保育の流れを時系列に記載する日誌（以下、時系列型）を採用している。この他にエピソード記録、環境マップ、子どもの個別の記録、を中心とする形式など、養成校の実習指導の方針に則り、日誌の様式は様ざまに存在する<sup>2)</sup>。近年では保育現場に拡がる写真を使ったドキュメンテーション型の保育記録を採用した実習日誌の形式もみられる。岩田・大豆生田ら（2019）の研究では、実習日誌に子どものエピソードを中心に写真や子どもの発言を書くことで、①実習生が子どもの楽しむ姿に共感することで楽しみながら実習日誌を書くことにつながる、②「子どもの遊びのおもしろさ」に実習生も保育者も具体的に気づきやすくなり、実習生が実習の現場で保育の協働的な営みを体験できることで、学生が保育現場におけるこどもの遊びや子どもの姿をしっかりと捉え、子どもの姿を文章で綴る力を養うために効果的であることが報告されている<sup>3)</sup>。しかし、それぞれの様式には指導上でのメリットとデメリットが存在する。保育者養成校は実習先と協働しながら、学生の学びを支えるための実践的で効果的な実習日誌の指導が求められている。

そこで本研究は実習日誌の様式に着目し、実習生を指導しやすい日誌の様式について実習指導を行う保育所および幼稚園の現場職員にインタビュー調査を行った。本調査は①各園が重視する実習日誌の指導のポイント ②現行の実習日誌の主流である時系列型およびエピソード型のメリット・デメリット ③今後の望ましい日誌の様式について調査し、保育者養成校が実習園での実習日誌の指導の実態を把握するとともに、今後の実習園との協働した実習指導

を目指す布石とすることを目的とした。

調査方法については、表1に示した質問事項をあらかじめ研究協力園に提示し、各園の実習指導者（園長、主任）に対して半構造化型面接によるインタビュー調査を行った<sup>4)</sup>。研究協力を承諾いただいた実習園は、関東近郊にあるA大学と日本児童教育専門学校の実習園全5件（私立保育園4園、私立幼稚園1園）であった。調査期間は2022年1月～5月にかけて行った。

## 2. インタビュー調査の分析

研究協力園5園はそれぞれA～Eとし、インタビューの内容の結果は、表1の質問事項の回答をもとに（1）実習指導の指導において重視すること（Q1、7）（2）現行の実習日誌の様式に関すること（Q2～6）、（3）実習日誌の誤字脱字や文章表現に関すること（Q2～6）、（4）望ましい実習日誌の様式（Q8）に分類した。各園のインタビューの内容は資料1～6に示した。本章は以下、4つの分類について資料1～6内の下線部分を中心に分析結果についてまとめた。

### （1）実習日誌の指導で重視すること

まず実習園が実習日誌の指導で重視する点について【資料1. 実習日誌の指導で重視すること】に記した。これらを大別すると、①実習生が保育者の意図や動きをどれだけ把握できたか、そして②保育者や子どもの観察を通じて十分に考察を行えたかという点であることがわかる（資料1内の下線部を参照<sup>5)</sup>）。実習期間中に実習生が保育者をよく観察し、その専門性を学ぶこと（保育士と子どもとの関わりや意図、施設の人的・物的環境への理解、保育士の職務内容の理解、施設の役割を理解すること）は実

表1. 実習園への主な質問事項

1	日誌の指導について、学生に指導するポイントはどのようなところですか
2	日誌の様式はどのようなタイプを指導したことがありますか
3	時系列型の日誌指導では、どのような指導を行っていますか
4	上記の日誌を活用する場合、どのようなメリット・デメリットを感じますか
5	エピソード型の日誌指導ではどのような指導を行っていますか
6	上記の日誌を活用する場合、どのようなメリット・デメリットを感じますか
7	日誌の指導で、学生の成長を感じることはありますか
8	望ましい日誌の形式について希望はありますか。

【資料1. 実習日誌の指導で重視すること】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌には「保育者があの場面で何をどう配慮したのか」「実習生が現場にいて何を学んだのか」を書いてもらうことを重視している。実習後の反省会で実習指導者が、場面に応じた保育者の意図や配慮について説明している。</li> <li>・日誌の内容が時系列の流れしか書かれていない、空欄が目立つ、子どもの遊びについて書かれていない、実習生の気づきが書かれていない例がある。そうした学生には、まず保育の基本的な考え方（保育者が子どもを「お世話をする」というものではなく、子どもの主体的な遊びや取り組みがあってこそ子どもの学びがあること）を伝えて視点や考察を深められるよう指導している。</li> <li>・日誌中の学生へのコメントとして時系列の欄にも付箋をつけて、実習生に「なぜこのように関わったのか」と尋ね、実習生から「こういう思いがあって書いた」と返答をしてもらうよう指導している。学生と実習指導者とのやり取りがあることが望ましいと考える。ただし、学生の個性に合わせた指導を大事にしたい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌を書く意義として、実習生が保育者を観察し記録することがあると考える。日常的に子どもの関わる保育者が生み出す保育空間をまず理解してもらう必要があるからだ。実習生には「保育者がこういう風に接すると、子どもはこうなるんだ」と知ってもらうことに大きな発見があり、子どもへの接し方を学んでいくのだと考える。（保育中あるいは）日誌の考察では、保育者の意図や視点に気づいたことや疑問に思ったことを積極的に書いてほしい（又は尋ねてほしい）。</li> <li>・実習生が日誌を書くことの困難さは、どの出来事を取り上げればいいのか、どんな理解や考察を深めればいいのか、ということに困難を感じていると思う。そこで実習生の各々個性を踏まえつつ、実習開始時にこちらから「失敗してもいいよ（うまくいなくてもいい）」と声をかけ、むしろ失敗を乗り越えることの方が大事で、実習中に自分をどう改善（向上）していくのか、自らの保育者としての関わりについて保育や日誌を通じて追求してほしいと伝えている。</li> <li>・実習生にはまず子どもや保育者と一緒に保育現場を楽しもうとする意欲がまず大事だ。その上で、子どもを見守ることを学んでほしい。</li> <li>・実習生には0歳～5歳までクラスを担当してもらい、様々な保育者の個性や考え方に触れてほしい、コミュニケーションをとってほしい。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者として気を付けていることについて、実習生もできるだけ同じような視点を持ち、一緒に子どもを見守ることのできるよう指導している。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の個性や独自の視点を大切に、実習生が将来的な自らの保育観を追求できるよう指導している。</li> <li>・実習生と実習指導者が、互いの考えや思いを伝え合うことが大切だと考える。実習日誌を通じて学生の理解度を知ることができる。反省会や保育現場での助言や指導のわからなかった点と分かった点が見えてくることがある。日誌に実習生が保育者の意図について率直に質問をしてもらえると指導者側もコメントができる。</li> <li>・「子どもが可愛かった」という感想に留まる内容には、その気持ち（子どもを愛おしく感じることを大切にするようには伝えている）。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌の内容には、実習生が気づいたこと、考察であると考えている。保育者が保育中に子どもたちに伝えたことを「」内でそのまま書いたり、行為だけを書くのではなく、保育者は何を意図しているのか、を念頭に記述してもらうよう指導している。</li> <li>・子どもたちに積極的に関わってほしい。</li> <li>・実習生の人柄や個性を見極めた指導を心掛けている。</li> </ul>

習評価の項目の一つであるが、それ以上に実習園では実習生が保育者と同様な「子どもを視る目」を持ってほしいという思いがあることを感じた。それゆえ、保育者の行為や言動をそのまま書くだけでなく、そこに潜む保育者の意図や願いにも気づいてほしいという声が見受けられる（C、E）。

しかし初めて保育現場に入った実習生がすぐに保育者の意図について気づくことは困難を抱えることだといえる。実習場面では先生の動きを観察するだけでなく自分自身も先生と並行して動くことは多く、物理的に先生を観察する時間が少ないことがある。また実習生によっては数日毎に各クラスに配属されることで保育の理解や日誌の書き方に戸惑いを感じることもあろう。そのため実習園では一日の実習終了後の反省会で、実習生から疑問や質問を受けたり、わからなかったことを話してもらうことで、

保育者が自らの意図や願いを伝える重要な時間だと捉えていることがわかる（A、B）。慣れない環境で緊張や不安を抱えやすい実習生の状況を配慮し、実習前から「失敗しても良いよ」と声をかけて励まし、わからないことや疑問については保育者や実習指導に質問してほしいと声をかけ、実習生には積極的に保育に参加してほしいと考えていることもわかった（B）。また実習期間中に様々なクラスに配属されることで、むしろ実習生が様々なタイプの保育者（経験年数や年齢、個性）と出会い、異なる保育の考え方や指導の仕方に触れ、保育の理解を拡げてほしいという声もあった（B）。

他方、実習園が実習生との個性に合わせた指導方法のポイントには濃淡も感じられた。①実習生が保育者を観察することで、自らの保育実践をふり返ってほしいという考え方（B）、②実習生が子どもと関

わりを続ける過程で、保育者の子どもを視る目に気づいてほしいとする考え方 (A)、③実習生の個性や独自の視点から自らの保育実践を振り返る指導をしたいとする考え方 (C) がある。

このような指導の結果として、実習園では実習生が日々の反省や助言を受けて変容する姿を「成長」と捉える声があった。【資料2. 日誌の指導で実習生の成長を感じることに】には、表1の質問7（「日誌の指導で、実習生の成長を感じることはありますか」）の回答を記した。実習日誌の指導を通じて、実習生が実習期間中に日誌の内容が変化することや、保育者の役割や子どもへ理解を深める姿、前日の反省を踏まえて頑張る姿を肯定的に受け止める回答があった (A、B、C)。また比較的経験の少ない若い保育者にとっても、実習生の指導は保育者としての成長を感じる経験に繋がるという声もあった (C)。

## (2) 日誌の様式に関すること

研究協力園では、すべての園で時系列およびエピソード型の日誌の指導を経験していた。この他の様式としてラーニングストーリー型 (1園)、ドキュメンテーション型 (1園) があった。

現行の実習日誌で主流である時系列型については【資料3. 時系列型の日誌の指導について】にまとめた。時系列型の日誌については、実習生が保育の一日の流れを把握するために、実習の最初の段階で行われる重要な記録様式だと捉えていることがわかった。しかし時系列型の日誌のデメリットも多くの声を頂いた。まず連日同じような保育の流れを機械的に繰り返し書く必要はないとの声が多く (A、C、D)、その場合はパソコン書きで効率的に作成することに賛成する声がある (A)。また記述欄内には臨機

応変な保育者の対応や、実習生の実習段階 (実習 I (観察・参加・部分実習)・II (部分・責任実習)) に合わせた記述を行うことができない、という声は多く寄せられた (A、C、D)。実習園では保育実習指導の記録指導については、全国保育士養成協議会「保育実習のミニマム・スタンダード Ver. 2」に則り、実習指導の目標や規定については熟知している。だからこそ実習の段階が進むごとに、時系列型の欄に保育の一日の流れを書くことから、保育活動の質的な観察と考察の深化に重点を移す様式 (保育のねらいや実習生の気づきの内容を重視する、特定の保育場面をエピソード記述する等) にする方が望ましいという声には説得力がある<sup>6)</sup>。

この他に時系列の項目欄の一つである、「環境構成」欄の実習生の記述が少ない傾向があるとの声があった (A、C)。実習生が保育中に保育環境の観察を見落としがち傾向として、時間的な制約や心の余裕がないまま目の前の子どもたちや保育の現場に気を取られ (視野の狭さ)、観察の機会を逃したり、実習前後に実習指導者から十分な説明を受けていないことが考えられる。(ただし「環境構成」欄の記述量は少なくても良いとする声 (E) もある。) 環境構成をどのように記述するかは、保育者養成校の指導の方針と手腕によるところも多いため、実習を通じて保育の「環境構成」について実習生の理解をどのように高めるかは今後見直していきたい。

また「保育者の援助」欄をめぐるのは指導の方針は二つに大別された。①子どもの姿をよく観察して、その背後にある保育者の意図や援助を推察してほしいと考える園 (B、C) がある一方で、②保育者をまず観察して保育者の意図を含めた保育者の行動を理解してほしいと考える園があった (E)。

【資料2. 日誌の指導で実習生の成長を感じることに】

A	日々の反省会等での指摘を受けて日誌の内容が変わっていく実習生がいるが、変わらない実習生もいる。実習生の個性に合わせた指導を心掛けている。
B	・実習生によっては、子どもと関わる経験が少ないため、子どもの動きの見通しができないことがある。日誌を書く中で、発達に応じて保育者が子どもとの関わり方に気づく過程 (成長) を見ることができる。
C	・反省会や保育現場で行った助言を、翌日に活かそうとする学生の姿もよく見られる。学生の成長や頑張りを感ずることがある。 ・若い保育者が指導を担当する際に、実習生に一生懸命共感して指導したり、自らが実習生だった時はこれだけ指導や配慮を頂いていたのかということを実感しながら、指導する様子が見られる。実習生も指導はわかりやすいのではないかと。若い実習指導者と実習生は互いに良い影響を受けていると思う。

次にエピソード型の実習日誌の指導についてである（【資料4. エピソード型の日誌の指導について】を参照）。エピソード型の実習日誌は、（時系列型では描くことの難しい）一連の保育の流れのなかで保育者や実習生と子どもの関わりを具体的に捉えることができるという声があり（A、B、D）、実習生の

子ども理解を深められる効果があることがわかった。しかしエピソードをどのように書いたらいいのか、どのように出来事を考察として記述すればいいのか等に困難を抱える学生もいることが指摘された（C、D）<sup>7)</sup>。

【資料3. 時系列型の日誌の指導について】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境構成」欄の記述量が少ないことが気になる。環境構成は、保育者が保育活動を円滑に進めるために様々な配慮を行っていることに気付いてほしい。実習指導者側も朝の打ち合わせ等で、事前に実習生に一日の保育活動を理解してもらう必要があると考える。</li> <li>・時系列型の日誌は、保育の流れを理解するために必要な様式だと考えるが、<u>保育者の臨機応変な対応を記述することができない。</u></li> <li>・時系列の欄は、毎日同じ内容を書くことになる場合は、パソコン書きでのコピーペースト機能を使っても構わないと思う。</li> <li>・エピソード記録を書く欄がない場合、考察欄に実習生の思いや気づきを感想のように書いてしまう。実習生が具体的な保育の現場から考察を行うことが難しい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの姿」と「保育者の動き」の欄が重要だと感じる。「子どもの姿」について、その背後に保育者の援助や意図があることを実習生が読み取れているかを、指導者側が把握し、指導することができる。</li> <li>・「実習生の動き」に実習生と子どもの関わりを書く例を見るが、適切な内容なのか疑問がある。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時系列型の日誌で過剰に記述して挫折する学生がいる。その場合、特定の保育活動や場面を取り上げて、それぞれ「ねらい」を設定して①子どもの姿②保育者の動き③実習生の気づきを書いてもらい指導した。</li> <li>・「子どもの姿」欄に、まず様々な子どもの様子を観察し記述してほしいと思う。その上で「保育者の援助」欄で、保育者が其々の子どもにどのように対応したのか観察して記述し、「実習生の気づき」を記述してほしい。この順番を経ることで実習指導者も実習生の理解度を把握しやすくなり、具体的に指導できると思う。</li> <li>・「環境構成」欄の記載は少ない。実習生には保育中に注意を向けることが難しいかもしれないが、日誌に環境図を具体的に書くことで保育者の配慮がより理解できると思う。例えば給食の机の配置（保育者が食事の介助や目の届きやすい配置の仕方、食物アレルギーの配慮の必要な子どもへの対応）への配慮も知ってほしい。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時系列型の日誌は一日の保育の流れを理解するために大事だと感じる。しかし毎回、同じ保育の流れを書くことには疑問がある。例えば実習2日目以降は「実習生の気づき」に重視した内容でよいのではないか。また実習Ⅰ（1年生）とⅡ（2年生）で日誌に書く内容の視点の違いをつけてはどうだろうか。</li> <li>・一日の流れを十分に書けない学生がいる。オリエンテーションなどで事前に説明しているが、十分に実習生に日案を伝えているだろうか、と気づかされる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各欄毎の罫線は事前に記載された方がよい。</li> <li>・「保育者の援助」欄では保育者の意図を含めて、保育者の行動を書いてほしい。</li> <li>・「子どもの活動」と「環境構成」は少なくともよい。</li> <li>・記述欄が評価に影響するわけではないが、記述量が少ないのは良くない。</li> <li>・日誌の「本日の保育のねらい」は不要ではないか。</li> <li>・「実習生の動き」欄には、実習生の意図と配慮も書きこんでほしい。実習生と子どもとの具体的な関わりを書く例があるが、エピソード欄に書く方がよい。</li> </ul>

【資料4. エピソード型の日誌の指導について】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード欄に記述することで①子どもの姿を観察してエピソードとして捉えること、②あるシーンでの保育者の行為の裏側を探る（子どもの文脈や大人と子どもの関係性を含め）ことを学んでほしいと指導している。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生には子どもを知るためのエピソード記録を書くことを意識してほしい。保育の出来事の一場面を切り取って描くのではなく、出来事の前後にある子どもたちの文脈や動きの展開を描いたり、保育者の関わりによって変化する子どもの様子を含めて書くことが望ましい。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード欄は保育場面の一連の流れについて、実習生の気づきと考察を深められる。保育空間の大人と子どもの関係や互いの意図について読み取ってほしい。</li> <li>・エピソード記述の作成には時間がかかる。</li> <li>・エピソード欄と反省欄で構成した日誌様式を指導経験がある。実習生の気づいたことと考察を書いてもらい、実習生の記述に子どもの視点が足りない場合、反省欄には実習指導者がコメントをする等の指導をした。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察がエピソードに対応していないように書く学生がいる。実習生の意図、実習生の行動、子どもたちの反応の変化を明確に書くとうい。日誌を読み返したときに状況をよく分かると思う。</li> <li>・複数のエピソードを書くべきだ。</li> </ul>

**(3) 文章表現・誤字脱字について**

実習生の誤字脱字や文章表現等の指導については【資料5. 誤字脱字・文章表現の指導について】に示した。実習指導者による添削作業が実習指導の中で大きな負担であることが確認できた。実習生が丁寧に筆記することや、適切な漢字表記や適切な文章表現を用いなければならないのはいうまでもない。だがその一方で、実習生の日誌の効率的な作成のために、パソコンの活用に賛成する声があることが確認できた(A、B、C.)。特に繰り返しとなりやすい時系列の一日の流れの欄の記載はパソコンのコピーペースト機能を活用し、実習生が質的な学びを深めるエピソード欄等に時間と労力を費やす方が望ましいという声である。

保育者養成校の事前実習指導では、学生の基礎的な日本語能力や保育現場での専門的な用語の習得については十分に指導する責任がある<sup>8)</sup>。しかし従来手書きを主としてきた保育現場においても、パソコンの活用が進んでいる。この現状を鑑みると、実習指導を実習先に大きく依存する保育者養成校においても、パソコンの活用についての教育効果について

一定程度の検討をする必要があるだろう。

**(4) 望ましい日誌の様式**

今後、活用が望ましいと考える実習日誌の様式については、【資料6. 望ましい日誌の様式について】に記した。最も多いのは、実習生の実習段階(I、II)に応じた実習日誌の様式であるほうが指導しやすいという声である(A、B、C)。保育者養成校では、実習先に事前に配布する実習日誌要項で実習段階に応じた実習指導の目的を明記しているが、そのような指導目的の違いを実習日誌の様式にも明確に反映させるほうが一貫した指導になるという実習園の声が確認できた。

またあらかじめ保育者養成校が指定した日誌の様式については、実習生が望む(書きやすい)日誌の様式を柔軟に選択・活用できるとよいという声があった(A)。日誌の記載を苦手とする実習生のなかには、しばしば時系列の項目の記載の目的が十分に理解できない、あるいは適切な分量の記載ができない実習生がいる。そのような実習生の特徴に合わせて日誌の様式をエピソード型に切り替えたり、実習

【資料5. 誤字脱字・文章表現の指導について】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>手書きが苦手な学生はパソコンを活用して良いと思う。パソコンを使用すると一日の日誌の枚数が増える(2~3枚から4~5枚に)ことがある。保育者の負担になるが、日誌作成の効率的な手段だと思う。</li> <li>誤字脱字や助詞「てにをは」の活用については指摘するとキリがないので、細かく指摘しないようにしている。ただし不適切な表現(させる、やっていた)には修正は行い、子どもを尊重する保育観の育成には配慮している。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>手書きの文字では判読しにくい学生もいるため、パソコンの使用は良いと思う。</li> <li>保育の流れを示す時系列の欄はコピーペースト機能を活用して構わない。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤ペンで誤字脱字等を一字一句を直すのが、手がかかると指導者も余裕がない。</li> <li>実習生(留学生等)の語彙力や文章表現力によって日誌の作成は実習生の負担になりやすく、実習への意欲の低下につながると思う。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤字脱字は気を付け、文字は丁寧に書いて欲しい。また罫線の引き方が雑だったり、下書きの線が残っていることがある。書き終わった後に読み返してほしい。</li> </ul>

【資料6. 望ましい日誌の様式について】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ記述欄の項目に指定のある日誌の様式が苦手な実習生(どう書いたらいいかわからず空欄になる、詳細に書くことで疲弊する)については、<u>学生の個性に合わせた様式を選択できるとよい。</u></li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成校の指導方針は様々であるが、実習の段階(IとII)に応じて、<u>養成校には実習の目的と指導すべきポイントを明確にしてほしい。</u>一回目の実習では保育者や子どもの姿や生活観察を重視し、二回目の実習では実習生の感じたことを深めても良いのではないかと。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学・参加実習については時系列型の日誌は良いと思う。しかし同じクラスに2週間配属される、又は責任実習を行う場合には時系列型は必要ない。日々の「保育のねらい」や保育の場面に絞った記述を重視し、学生の日々の実習への課題や、保育場面への理解について、具体的に助言や指導したい。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習I(一年生)と実習II(二年生)で日誌を書く視点の違いをつけてはどうか。</li> <li>複数のゾーン遊びの場面を記録する際、遊びの場面に合わせた日誌の様式(環境図マップへの書き込み等)が必要かもしれない。<u>学生が書きやすい様式を数パターンから選べるとよい。</u></li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保育者の援助」欄には保育者の意図や子どもの反応についても書いてはどうか。</li> </ul>

生の書きやすい項目欄を設定することで、実習生の日誌の記載を促したという事例を伺うことができた(C、D)<sup>9)</sup>。また実習先の保育実践に合わせた日誌の様式(例えば環境マップ型)を活用することで、実習生が書きやすくなるのではないかと提案も受けた(D)。

ドキュメンテーション型日誌のような写真を活用する場合については、【資料7. 実習日誌の写真の活用について】に記した。個人情報保護の観点から写真の公開や保管方法については慎重な声が多い(A、B、C、D)。すでに写真を活用した日誌を指導した園では、写真の管理、保護者からの同意を得るための手続き、写真の活用についての実習生への指導を行っていたことが確認できた。こうした手続きは実習先の負担になることも考えられる。しかし写真を活用した実習指導の効果への期待は高く、実習生が日誌を書く動機が高まったり、実習指導者も実習生の視点がわかりやすくなることで指導がしやすくなる、などの声も確認できた(A、B)。

### 3. 総括と今後の展望

本調査を通じて、筆者は改めて実習園の様々な指導方針とその実情、そして実習指導を頂く熱意や苦勞について知ることができた。実習指導については実習先と緊密な協働・連携が不可欠なことはいまでもない。今回の調査に応じてくださった数園だけでもその指導の特徴は実に様々であるが、毎年見直し・改訂がなされる『実習の手引き』や『実習日誌』について、どのようなご理解をもってご指導いただいているのかを、「なんとなく」ではなく具体的に把握することができた。今後は実習園とともに実習生を育てていく、よりよいプロセスの構築に向けて、保育者養成校側が学生及び実習先に対して、実習日

誌を通して学生に何を身に付けてほしいかを明確に示すための改善を図りたい。そこで現段階で検討したい事項について以下にあげる。

まず本調査で多くの指摘を受けた日誌の項目欄のねらいの明確化についてである。他の保育者養成校の実践研究がするように、実習生が保育者側の意図や動きに気づくことは難しいことは指摘されている。例えば時系列型の日誌の項目に「保育者の意図と願い」を設け実習生の保育現場への観察を深めようとした実践研究(阿部：2009)や、エピソード型の実習日誌については「子どもの遊び・活動」「保育者の援助」「実習生の気づき・学んだこと」項目欄を設け、日誌の書き方や視点を明確化した実践研究がある(小山：2007)。こうした実践を参考に、実習方針に沿った様式や項目欄の在り方について見直し、とりわけ困難を抱えやすい学生たちが書きやすく、かつ保育理解を深めやすい日誌の様式に工夫を図りたい。

また日誌の誤字脱字や不適切な文章表現の使用に関する問題は、パソコンの活用によって解消される点もあるが、やはり保育者養成校での授業実践を通じて普段から誤字脱字をしないことや、保育者として必要な専門的な保育用語や文章表現を意識しながら書く習慣を身に付ける指導を行うことが大切だ。漢字の正誤の判断のできない学生については、学生のリテラシーの実態に適した指導方法の検討が求められる。先行の実践研究として、学生に対して適切な表現を示した事例集を集めた実習「手引き」の作成をした研究(上萬：2018)や、授業内で繰り返し日誌を「書く練習」を行った実践研究(原田：2019)がある。こうした授業実践に倣いつつ、保育者養成課程全体の科目を通じて学生の語彙力と子どもや保育に対する見方・感じ方を育てていく必要があると

#### 【資料7. 実習日誌の写真の活用について】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの顔の撮影には制約を付けるべきと思うが、園内の環境構成については構わないと思う。</li> <li>写真の活用で実習生も日誌が書きやすくなり、保育者と話し合う良い素材になるのではないと思う。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真のデータ管理を園内で行う必要がある。撮影機器はスマートフォンではなくカメラ使用ならば、園内でデータ管理がしやすいのではないか。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真の活用は個人情報保護の点で難しいが、実習生は日誌の作成が楽しくなり、保育者に共感してもらいやすくなるのではないか、保育者も実習生の感性を把握しやすいかもしれない。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を使った日誌を指導した経験がある。保育者養成校の指示で実習日誌の写真の活用について保護者に対して個人情報保護に関する同意(子どもの顔を真正面からとらない、実習指導者が写真を確認して日誌添付を許可する、写真データはその場で削除する)を取って対応した。個人情報保護のルールを実習生が十分に理解し遵守することが重要である。</li> </ul>

感じる<sup>10)</sup>。

また今回の調査では実習日誌の作成におけるデジタル機器の活用(写真、パソコンの活用)についても研究協力園から様々な声を頂くことができた。保育現場において進められるデジタル機器の活用を実習指導の場面でどのように活用するか、今後検討を図る必要がある。デジタル機器の活用によって負担になりやすい日誌の指導の効率化や、子ども理解や保育理解の深まりを期待したい一方で、個人情報保護や人権擁護については実習生本人が熟知した上で実習が行えるよう、保育者養成校と実習園がリスク管理の事項を十分に共有し一貫した実習指導を行う必要があるだろう。

### 【注】

- 1) 保育者養成校全体として、学生が実習において実習日誌の作成を最も困難な課題の一つとして上げる例は多い。全国保育士養成協議会(2016)『平成27年度専門委員会課題研究報告書 学生の自己成長感を保障する保育実習指導の在り方—ヒアリング調査からの検討—』
- 2) 開は実習日誌の形式を6つに分類し、「流れ記録型」(≒時系列型)、指導案を書くための情報獲得のための「指導案情報獲得型」、活動ごとの子どもの姿、必要な環境の構成や保育者の援助を記す「活動まとめ型」、子どもや保育者の姿をありのまま総合的にとらえ具体的に書く「エピソード型」、部分実習や責任実習後の振り返りとしての「指導案振り返り型」の様式をレビューした(開:2012)。開はそれぞれ記録としてのメリットとデメリットを示し、実習の段階(観察実習、参加実習、指導実習)の目的に合わせた活用を推奨する。ただし保育者養成校の教育方針や学生の習熟度によって、これらのメリット・デメリットの状況は違ってくるだろう。
- 3) ドキュメンテーションとは、イタリアのレッジョ・エミリア市等の保育実践で用いられる日々の保育の中の幼児の発言や行動を写真やビデオ、絵などを用いた保育の記録である。日本の保育現場では、幼児の様子を可視化させるツールとして、保育記録や園内での掲示物として活用される。実習指導の現場では、実習日誌に写真やエピソードを用いた様式として活用が試みられている(陸路、他:2019、大江、大谷、木下:2015、亀山、佐竹、志方:2019、岩田、大豆生田他:2019)。
- 4) 本調査は敬心園職業教育研究開発センター倫理委員会(敬職20-04)の承認を得た。研究協力園には本調査の結果分析や今後の本養成校の実習指導において個別の研究協力園の利益が優先されるものではないこと、本調査の研究発表や論文公開については実習生および実習園の個人情報保護や人権擁護に十分に配慮することを承認した上でご協力いただいた。
- 5) 学生の実習日誌の評価をめぐることは、実習園の実習指導

者と保育者養成校では評価の軸が異なることが指摘できる。例えば幸は、実習園では「実習生が何をどのように見て感じたか」、「実習の狙いが明確で自分への気づきができるか」という点を評価する傾向があるが、養成校は事前事後指導を含んだ学生個人の気づきや学びに評価する傾向があることを指摘する(幸:2008、2009)。

- 6) 実習生の実習の段階に応じた日誌の様式の研究としては開(2012)がある。なお実習生の実習の段階に応じた実習生の子どもや保育の捉え方の変容を捉えた研究としては、打越(2006)、野上他(2011)、山田他(2013)がある。
- 7) エピソード型の日誌の教育効果については、実習生と子ども、保育者を介したやり取りが活性化したり(大江:2016)、実習後に学生が自己の課題に気づきやすくなること(松原:2022)が指摘されるが、書き方の理解や日本語の表現力に個人差が大きく、記録にふさわしい保育場面が取り上げられない等の課題も指摘される(小山:2007、大江:2016、富田:2020)
- 8) 実習日誌のリテラシーの指導方法を探った授業実践の研究については多くある(高井:2006、平松:2018、吉江:2020、原田他:2017、大塚他:2022) 保育学生として身に着けるべき適切な日本語表現を指導した実践研究としては(佐藤:2014、2015)の研究がある。
- 9) 日誌の記述に困難や負担感を抱える実習生には、実習生が自由に欄を作成して記述しやすい様式を実践した研究がある(幸:2008、2009)。
- 10) 実習日誌を活用した保育の記録の学びについては、「保育内容総論」や「子育て支援論」、「保育原理II」等の科目で、実習後の実習日誌の考察の記述の理解を助け、深めていく実践研究がある(矢萩:2018、橘:2018、甘他:2019、小澤:2021)。

### 【参考文献】

- 阿部 直美、村井 尚子(2008)「実習における個人観察の意義の検討」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』大阪樟蔭女子大学(7)111-120
- 阿部 直美、村井 尚子(2009)「保育者の「意図・願い」を見据えた実習日誌の記録の試み—自由遊びの場面と設定保育の場面との比較検討」『関西教育学会年報』/関西教育学会 編(33)91-95
- 阿部 直美、村井 尚子(2009)「保育者の意図・願いを見据えた実習日誌の記録の試み」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』大阪樟蔭女子大学(8)143-155
- 岩田 恵子、大豆生田 啓友、鈴木 美枝子、田澤 里喜、田甫 綾野(2019)「ドキュメンテーション型実習日誌」の試みと課題『論叢:玉川大学教育学部紀要』玉川大学教育学部編(19)125-140
- 岩田 恵子、大豆生田 啓友、鈴木 美枝子、田澤 里喜、田甫 綾野(2020)「ドキュメンテーション型実習日誌」の試みと課題『玉川大学教育学部紀要』玉川大学教育学部(19)125-140
- 打越 みゆき、藤原 明子、里脇 福代(2006)「保育士養成コースにおける実習を通しての学習の分析—実習評価

- 票・実習日誌の分析を通して』『星美学園短期大学研究論叢』研究論叢編集委員会 編 (38) 55-75
- 大江 まゆ子、大谷 彰子、木下 隆志、片岡 章彦 (2016) エピソード実習記録を用いた学生の学びの実情：記録時に感じる学生の困難感に焦点を当てて『研究紀要』芦屋学園短期大学研究紀要編集委員会 編 (42)
- 小澤 由理 (2021) 「初めてのドキュメンテーションの作成を通じた保育記録に関する学生の学びについて — 『保育原理Ⅱ』による授業実践の取り組み —」『聖ヶ丘教育福祉専門学校紀要』聖ヶ丘教育福祉専門学校 (33)
- 小山 祥子 (2007) 「幼児理解と保育者の援理解を深める保育記録に関する研究 (Ⅱ)：エピソード記録型実習日誌の効用と課題」『北陸学院短期大学紀要』北陸学院短期大学 (39)
- 幸 順子 (2008) 「反省的实践に有用な保育実習記録様式作成に関する研究」『保育士養成研究』全国保育士養成協議会 (26)
- 幸 順子 (2009) 「保育実習における記録様式作成に関する研究」『名古屋女子大学紀要』名古屋女子大学 (55)
- 澤津 まり子、宮本 安恵、岡崎 典子、牧野 葉子、山根 和枝、中島 由香、吉永 智恵、山根 順子、熊代 祐子、牧 里実 (2014) 「実習施設と保育士養成校の協働による保育実習 (保育所) の実践 — 実習日誌の検討を手がかりとして —」『就実論叢』就実論叢編集委員会 編 (43)
- 佐藤 達全 (2015) 「保育科学生の文章表現力低下の原因と対応 — 日本語表現法の課題文と実習日誌を中心にして —」『育英短期大学研究紀要』育英短期大学 (32)
- 上萬 雅洋 (2018) 「保育学生のための実習日誌における『考察』の書き方の手引き」の作成について」『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』鳥取看護大学・鳥取短期大学 (76)
- 全国保育士養成協議会 (2016) 『平成27年度専門委員会課題研究報告書 — 学生の自己成長感を保障する保育実習指導の在り方 — ヒアリング調査からの検討 —』
- 高井 真夫 (2006) 「保育実習日誌に見る誤字に関して」『東筑紫短期大学研究紀要』東筑紫短期大学 (37)
- 橋 和代 (2018) 「実習日誌の着眼点整理と保育内容総論におけるアクティブラーニング」『有明教育芸術短期大学紀要』有明教育芸術短期大学学術情報委員会 編 (9)
- 富田 浩子 (2020) 「乳児期の『表現』をどのように捉えるか：実習日誌のエピソード記録に着目して」『茨城女子短期大学紀要』茨城女子短期大学紀要委員会 編 (47)
- 野上 俊一、山田 朋子 (2011) 「保育実習日誌の記述における自己評価の変容」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』中村学園大学 (43)
- 廿 麻乃、重村 美帆、久光 明美、徳永 良枝 (2019) 「『保育内容総論』を通じた実習日誌の記述の変化」『人間生活科学研究』宇部フロンティア大学短期大学部 編 (54)
- 原田 早苗 (2019) 「保育実習における指導内容に関する一考察 (その2) 実習日誌の記載力向上のためのプラムドリルの創作と活用に関する試み 考察編改訂版」『紀要』つくば国際短期大学紀要編集室 編 (45)
- 原田 早苗 (2018) 「保育実習における指導内容に関する一考察 (その2) 実習日誌の記載力向上のためのプラムドリルの創作と活用に関する試み 考察編」『紀要』つくば国際短期大学紀要編集室 編 (44)
- 平松 喜代江 (2018) 「リテラシーの向上を目指した保育実習指導に関する考察：保育実習記録の分析から」『幼児教育文化研究』三重幼児教育文化研究会 編 (3)
- 開仁志 (2012) 「保育に関する実習日誌の形式」『富山国際大学子ども育成学部紀要』富山国際大学 (3)
- 山田 朋子、野上 俊一 (2013) 「保育実習Ⅰ・Ⅱの学びの変容を結ぶ事前事後指導 — 保育実習日誌の記述内容と自己評価 —」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』中村学園大学 (45)
- 矢萩 恭子 (2018) 「〈研究ノート〉「子育て支援実習」において養成される保育者の専門性：実習日誌の分析を通じて」『田園調布学園大学紀要』田園調布学園大学 (12)
- 吉江 幸子 (2020) 「保育実習日誌の書き方に関する考察」『星槎道都大学研究紀要』星槎道都大学研究紀要編集委員会 編 (1)
- 陸路 和佳、松本 和美、山田 吉郎、山室 吉孝、山里 哲史 (2019) 「子どもを視る眼を育む実習日誌について」『鶴見大学紀要 第3部、保育・歯科衛生編』鶴見大学 (56)
- 陸路 和佳、松本 和美 (2020) 「子どもを視る眼を育む実習日誌について (2)」『鶴見大学紀要。第3部、保育・歯科衛生編』鶴見大学 (57)
- ※本研究は2021年度敬心学園研究プロジェクト採択研究「保育者養成校における学生による保育記録の質の向上に関する実践的な研究：今日求められる実習記録の教育実践・理論・歴史の観点から」(研究代表者：小澤由理)の研究助成を受けている。
- 本研究のインタビュー調査では、実習先である研究協力園にはコロナ禍にも関わらず、貴重な時間を割いていただき、私共の質問に丁寧な回答をして頂いた。私共の調査研究に快く応じて下さった園とその先生方には、保育者養成校の教員として多くを学ぶ機会を頂戴できたこと、そして日頃より実習生を指導頂いていることに、改めて深い感謝の意を示したい。

受付日：2022年11月9日

